

## 黒毛和種去勢肥育牛の 出荷月齢早期化を可能にする飼料給与技術

黒毛和種肥育経営では素牛価格の高止まりが続き、また、一部一貫経営への転換において自家産素牛確保や若齢で素牛導入を図る動きがあります。そこで、新潟県農業総合研究所畜産研究センターでは、早期に肥育開始が可能な条件下において、これまでと遜色ない重量・肉質・締まり・脂肪酸組成を確保しながら出荷月齢早期化を図る飼料給与技術を開発しましたので紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 気高系父牛の産子である黒毛和種去勢牛 24 頭を用い、「前期粗飼料多給区(分離給与)」、「前期発酵 TMR 給与区」及び「前期濃厚飼料多給区(分離給与)」の試験区を設け、7 か月齢から肥育を開始し、14 か月齢を目標に濃厚飼料 10kg まで増給し、出荷まで摂取量を維持しました。26～27 か月齢において、約 30 か月齢並みの出荷成績が確保できました。
2. 「前期粗飼料多給区」及び「前期発酵 TMR 給与区」は、9 か月齢時の粗飼料給与量を 5 kg 程度(風乾物)とし、粗飼料由来の養分によって発育に必要な養分を充足させます。「前期発酵 TMR 給与区」は、粗飼料多給のしやすさとばらつきのない増体に最も適していました。
3. 「前期濃厚飼料多給区」は、前期での粗飼料が少ないために第一胃の発達が他の体系より劣り、濃厚飼料多給への適応に個体差が現れ、乾物摂取量に対する増体重がばらつき、重量不足となる牛が出現しましたが、極めて増体の良い牛も出現しました。
4. いずれの区においても、出荷月齢の早期化によって約 30 か月齢出荷の分離給与による肥育に比べて1頭当たりの飼料費が低減しました。



写真1 27ヶ月出荷牛の枝肉

### ☆ 活用面での留意点

1. 「前期粗飼料多給区」は粗飼料の容積が大きく、着実な摂取と濃厚飼料の選び食い防止をするためには、多回給与やえさ寄せ、嗜好性の良い牧乾草の選択が必要です。
2. 「前期発酵 TMR 給与区」は、TMR 開封後の変敗に留意し、急激な増給は残飼が増えるため、増給は1kg/月程度として下さい。
3. 詳しくは、新潟県農業総合研究所畜産研究センター酪農肉牛科(Tel.0256-46-3103)に問い合わせ下さい。